サンパウロ大学主催の国際シンポジウム「国際語としての日本語」

８月１０日、中前総領事はサンパウロ大学主催の「国際語としての日本語」国際シンポジウムの開会式典に出席しました。

本シンポジウムの目的は、日本語、日本文学と文化に関しての国際化や言語政策について議論する場を提供し、両国の学問交流を深めることにあります。

詳しくはこちら：http://ejhib2015.com/

中前総領事は挨拶の中で、サンパウロ大学において本シンポジウムの初開催を祝福するとともに日本語学の修士課程をブラジルで唯一設置している本大学の重要性について述べました。

国際シンポジウム「国際語としての日本語」式典

サンパウロ大学日本語研究所

８月１０日

中前総領事挨拶

国際シンポジウム「国際語としての日本語」の第一回目の開催をお慶びするとともに、栄えある開会式にお招きいただいたことを大変嬉しく、お礼申し上げます。本シンポジウムの開催をお祝いすると同時に、開催に向けてご尽力された関係者の皆様方に敬意を表します。

本年は、我が国とブラジル国が外交関係を樹立して１２０年、そして在サンパウロ日本国総領事館が開設されて１００年になる記念の年であります。更には、ブラジルにおいて初めて日本人学校が設立されて１００年になる特筆すべき年であります。この慶賀すべき年にシンポジウムが開催されますことは、多言語国家ブラジル国において、いかに日本語が根付いているか、再認識させてくれる誠に意義ある機会だといえましょう。

さて、ブラジルにおける初の日本人学校は、１９１５年７月に開校した大正小学校だと言われています。他にも特筆すべき多くの日本人学校が誕生し、そしてそれらは後にブラジル学校へと変貌を遂げました。総領事館が開設されて１００周年になる本年、在サンパウロ日本国総領事館では、日本文化の振興および日本語コースの設置を行っている州立７校および私立１９校に感謝の意を表し、公館長表彰を授与いたしました。

最高学府における日本語教育について述べるとき、日本語学の修士課程を唯一設置しているサンパウロ大学に言及しないわけにはまいりません。近く博士課程も設置される予定であると伺っており、早期に実現されますことを切に望んでおります。サンパウロ大学はまた、その盛んな日本語研究の成果により、ブラジル国の日本研究の発展に貢献していらっしゃると承知しております。

日本語は、日系人に限らず、日本文化に関心を抱くブラジル人一般から広く関心を寄せられている言葉であります。本シンポジウムの開催は、多文化社会ブラジルにあって、アジアの数ある言語の中で、もっとも盛んに研究されている言語のひとつである日本語の重要性を示すものであります。

私は、サンパウロ大学、サンパウロ州立大学、カンピーナス大学をはじめとする研究機関の価値ある研究と活動により、今後も益々日本語研究は盛んになり、日本文化が浸透していくものと、大いなる期待を寄せております。最後に、本シンポジウムの成功と、そして本シンポジウムが新たな研究を生み、そして両国間の理解を一層深める機会となりますことを祈念して私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。